# 建築確認申請提出前のチェックシート(構造関係)

<u>構造計算が必要な建築物</u>について、次の 1~3に示す事項を必ず確認の上、確認申請書類を提出してください。(チェックリストを添付する必要はありません。)

### ・確認申請の受付前に受理時の審査を行います。

受理時の審査において、「図書の添付漏れ」等の不備がある場合、確認申請の<u>受付ができません</u>ので十分ご注意ください。

### ・確認申請受付後は軽微な補正以外の訂正ができません。

確認申請受付後に「図書相互における不整合」、「明示すべき事項の記載漏れ」等があり、建築基準関係規定に適合するかどうか判断できない場合は、確認申請の<u>再提出</u>となる場合がありますので十分ご注意ください。

- ※ 図書を作成する際は、建築行政情報センターのサイトに公開されている「改正建築基準法に係る質疑・応答」「構造審査・検査の運用解説」「様式等の記載事例」等を参考にしてください。 \*建築行政情報センターのサイト http://www.icba.or.jp/kaisei/H19KadaiKento.htm
- ※ 鉄骨造、RC造、SRC造用のチェックリストです。その他の構造の場合は別途ご確認ください。
- ※ 確認申請に必要な全ての図書および明示すべき事項を掲載しているものではありませんのでご注意ください。

## 1 構造審査に必要な添付書類の確認

次の図書のうち必要なものがすべて添付されていることを確認してください。

#### 11添付が必要な図書(規則1条の3 表1及び表2に掲げる図書)

図書の種類	備考
配置図	
各階平面図	
2 面以上の立面図	
2 面以上の断面図	
基礎伏図	
各階床伏図	
小屋伏図	
2 面以上の軸組図	
構造詳細図	
使用構造材料一覧表	
基礎・地盤説明書	
施工方法等計画書	
令第○○条第○項の規定に適合することの確認に必要な図書	

## 1.2 添付が必要な構造計算書 (規則第1条の3 表3に掲げる図書)

構造計算書の種類		構造計算の方法※		<u>፟</u>	備考
	特に日弁首ツ性状		ルート2	ルート3	MH <sup>*</sup> 5
	目次等の計算書の構成がわかる措置	0	0	0	
	構造計算概要書	0	0	0	
	構造計算チェックリスト	0	0	0	プログラムを使用しない場合は不要
	使用構造材料一覧表	0	0	0	
	特別な調査または研究の結果等説明書	0	0	0	
	基礎・地盤説明書	0	0	0	
	略伏図	0	0	0	プログラムを使用しない場合は不要
	略軸組図	0	0	0	プログラムを使用しない場合は不要
	部材断面表	0	0	0	
	荷重・外力計算書	0	0	0	
	応力計算書	0	0	0	応力図及び基礎反力図を含む
	断面計算書	0	0	0	断面検定比図を含む
	基礎ぐい等計算書	0	0	0	基礎ぐい、二次部材等の計算書
	使用上の支障に関する計算書	0	0	0	
	層間変形角計算書	_	0	0	
	層間変形角計算結果一覧表	_	0	0	
	保有水平耐力計算書	_	_	0	
	保有水平耐力計算結果一覧表			0	
	剛性率・偏心率等計算書	0	0	0	鉄骨造ルート 1-2 の場合は偏心率に
	剛性率・偏心率等計算結果一覧表	0	0	0	係る計算書のみ必要
	屋根ふき材等計算書	0	0	0	

<sup>※</sup>各計算ルートに応じて @:必ず添付が必要 O:該当する場合は添付が必要 ー:添付不要

### 1.3 添付が必要なその他の図書

図書の種類		備考	
	建築士免許証の写し	設計図書に応じて	
	構造計算の安全証明書の写し	建築士法第20条第2項に規定する証明書	
	大臣認定書の写し	別添のうち審査に必要な部分を含む	

## 2 明示すべき事項の確認(S造、RC造、SRC造共通)

次の明示すべき事項のうち必要なものが全て記載されていることを確認してください。

### 2.1 図書に明示すべき事項 (表 1.2 関係)

表 1,2 の図書に明示すべき事項
平面図、立面図、伏図、軸組図等に明示すべき事項
□基礎の配置、寸法 □柱の位置、寸法 □梁の位置、寸法 □接合部の位置、寸法
口開口部の位置、形状及び寸法
構造詳細図等に明示すべき事項
□構造耐力上主要な部分である部材の構造方法及び材料の種別
□圧縮材の有効細長比 □接合部、継手、仕□の構造方法
口鉄筋の配置、径 口鉄筋の継手及び定着の方法 ロコンクリートのかぶり厚さ
口屋根ふき材、内装材、外装材、帳壁等の部分および広告塔、装飾塔等の取付部分の構造方法
使用構造材料一覧表等に明示すべき事項
ロコンクリートの種別 口鉄筋の種別 口鋼材の種別 口ボルト類の種別 口骨材の種別 口水の種別
□混和材料の種別 □腐食、腐朽、摩損の恐れの程度またはさび止め、防腐、摩損防止の措置
基礎・地盤説明書等に明示すべき事項
口支持地盤の種別および位置 口基礎の種類 口基礎の底部または基礎ぐいの先端位置
□基礎の底部に作用する荷重の数値及びその算出方法 □木ぐい及び常水面の位置

	施工方法等計画書等に明示すべき事項
	口基礎ぐいの打撃力等に対する構造耐力上の安全性を確保するための措置
	ロコンクリートの強度試験方法 ロコンクリートの調合 ロコンクリートの養生方法
	ロコンクリートの型枠の取り外し時期及び方法
	令第〇〇条第〇項の規定に適合することの確認に必要な図書(〇は該当する条項等)
2.2	構造計算書に明示すべき事項(表3関係)
	表3の構造計算書に明示すべき事項
	目次等
	口通し頁を付し、目次をつける等、計算書の構成を識別できる措置
	構造計算概要書
	口国土交通大臣が定める様式に記載すべき事項
	構造計算チェックリスト
	適用範囲(□構造種別 □規模)
	使用構造材料一覧表
	ロコンクリート、鉄筋、鋼材、ボルト類の種別及び使用部位
	口コンクリート、鉄筋、鋼材、ボルト類の許容応力度、許容耐力、材料強度の数値および算出方法
	口大臣認定を受けたコンクリート、鉄筋、鋼材、ボルト類の認定番号
	基礎・地盤説明書
	□地盤調査方法及びその結果 □地層構成 □支持地盤の位置 □建築物の位置 □地下水位
	口基礎の工法の種別 口基礎の位置、形状、寸法及び材料の種別
	口支持層の位置、層の構成 口調査結果より設定した地盤の特性値
	口地盤の許容応力度 口基礎及び基礎ぐいの許容支持力の数値および算出方法
	略伏図
	口部材の種別の口部材の配置及び寸法の開口部の位置
	略軸組図
	口部材の種別 口部材の配置及び寸法 口開口部の位置
	部材断面表
	□柱、梁の断面の形状、寸法及び仕様 □その他構造耐力上主要な部分である部材の断面の形状、寸法及び仕様
П	荷重・外力計算書(必要な数値及び算出方法)
-	□固定荷重 □積載荷重 □大規模な設備、塔屋その他の特殊荷重 □積雪荷重 □風圧力 □地震力
	口土圧、水圧、その他 口特殊荷重の分布
	応力計算書(必要な数値及び算出方法)
	□各部材の応力 □短期時に柱及び耐力壁それぞれが負担するせん断力及び分担率
	□応力図(□柱スパン □階高 □軸力、モーメント、せん断力の数値 □凡例)
	口基礎反力図(柱スパン 口反力の数値 口鉛直時の反力の合計
	断面計算書(必要な数値及び算出方法)
	口柱、梁、接合部の位置 口部材に付す記号 口部材断面の仕様 口部材に生じる荷重の種別及び作用方向
	口軸方向、曲げ及びせん断の応力度 口軸方向、曲げ及びせん断の許容応力度 口各応力度と許容応力度の比率
	口断面検定比図(口柱スパン 口階高 口柱、梁の断面検定値 口凡例)
	基礎ぐい等計算書(必要な数値及び算出方法)
	口基礎ぐいの計算書 口床版の計算書 口小ばりの計算書 口その他二次部材の計算書
	使用上の支障に関する計算書
	□H12 告示 1459 号の検討内容
	層間変形角計算書
<u> </u>	
	口計算に用いる地震力 口層間変位の算出方法 口各階・各方向の層間変形角の算出方法

	層間変形角計算結果一覧表	
	口各階・各方向の層間変形角 口損傷が生ずるおそれのないことについての検証内容	
	保有水平耐力計算書	
	口計算に用いる地震力 口各階・各方向の保有水平耐力の算出方法 口各階の Ds の算出方法	
	口各階の Fes の算出方法 口各階・各方向の必要保有水平耐力の算出方法	
	口柱・梁の靭性の検証内容(口引張鉄筋比 口軸方向応力度 口せん断スパン比 口せん断補強筋量	
	口曲げ強度時のせん断応力度)	
	□柱梁接合部の検証内容 □柱・梁継手の保有水平耐力接合の検証内容	
	保有水平耐力計算結果一覧表	
	口計算に用いる外力分布 口架構の崩壊形 口各階の保有水平耐力の数値 口各階の Ds の数値	
	口各階の Fes の数値 口各階・各方向の必要保有水平耐力の数値	
	ロDs 算定時の各階・各方向の応力図 ロDs 算定時の各階・各方向の塑性ヒンジ図	
	口各階・各方向の部材の部材群としての部材種別	
	口保有水平耐力時の各階・各方向の応力図 口保有水平耐力時の各階・各方向の塑性ヒンジ図	
_	口各方向におけるせん断力と層間変形角の関係(増分解析による場合)	
Ш	剛性率・偏心率等計算書	
	口剛性率を求める場合の層間変位の算出方法の日各階・各方向の剛性率の算出方法	
_	口各階の剛心周りのねじり剛性算出方法 口各階・各方向の偏心率の算出方法	
	剛性率・偏心率等計算結果一覧表	
	□各階の剛性率 □各階の偏心率 	
	昭 55 建告 1791 号第 2(鉄骨造)	
	□筋かい端部・接合部の検証内容 □柱梁耐力比の検証内容 □柱・梁の幅厚比の検証内容	
	□仕□部の検証内容 □梁の継手部の検証内容 □梁横補鋼の検証内容 □柱脚の検証内容 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
	屋根ふき材等計算書	
	口屋根ふき材の検証内容 口外装材の検証内容 口帳壁の検証内容	
_		
	の他の確認事項	
3.1		
	確認申請書の正本と副本の整合がとれている。	
	申請書第1面および正本に添付された設計図書の全てに記名・押印がされている。(構造計算書は表紙のみ) 図書相互の整合(意匠図と構造図、構造図間など)がとれている。	
	図書作品の建合(悪世図と構造図、構造図間など)がこれでいる。  (平面図と床伏図、立面図と軸組図、伏図と軸組図など)	
	構造図と計算書の整合がとれている。(またはモデル化の考え方が示されている)	
	(柱・梁の部材、構造階高、構造スパンなど)	
3.2	構造計算の安全証明書の写しについて	
	交付者と委託者の関係が確認申請書 2 面と整合が取れている。	
	証明書と構造計算書の割印が押されている。	
	「建築物の区分」欄について正しいものに〇がされている。	
<u> </u>	様式の記入注意をよく読んで記載してください。	
/•\	DECEMBER OF ADMINISTRATION OF STREET	
3.3	構造計算概要書について	
	参照頁が正しく記載されている。(参照頁が複数ある場合はすべて記入してください)	
	該当しない項目についてはその旨記載されている。	

- ※ 様式の注意事項をよく読んで記載してください。